

平成22年度 東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞表彰者一覧

表彰者の概要

被贈呈者数:40名(男性:36名、女性4名)、平均年齢: 59.0歳 (最年長76歳、最年少39歳)

職種	表彰者氏名	ふりがな	性別	年齢	技能の概要
手かじ(鍛造)工	田中 清介	たなか せいすけ	男	68	金切鋏の祖である安藤入道盛房の系譜を引く「盛久」で技術を修得した父の茂吉氏に師事し、技術を受け継いでいる。作品は脚部をあらわした鉄棒に「総火造り」の技法で鋼を鍛接する伝統的技法で製作されており、高く評価できる。
金属熱処理工	伊川 幸夫	いがわ ゆきお	男	55	工具鋼を中心とした真空熱処理技能を向上させた。特に、高速冷却を必要とする高速度工具鋼の焼入作業や医療器用部品の熱処理に多くの工夫を加え、安定した熱処理を可能とした。また技能の向上や作業改善のみならず、適切な熱処理条件の設定と標準化とその定着に努め、品質向上、生産性の向上に貢献した。
金属手仕上工	坪井 明	つばい あきら	男	66	第13回技能五輪国際大会の機械組立て職種において、第1位を受賞するなど、金属手仕上工として高度な技能を有している。特にHDD磁気ヘッドラッピング加工技術では、超高精度加工技術の確立を通して、業界の発展に貢献した。
金属手仕上工	坂巻 亨	さかまき とおる	男	65	伝統工芸「東京銀器」の技術技法を駆使し、洋食器トレー、おろし金、玉杯等の日常品の製作に意欲的に取り組む。銀板の成形技術、金型製作、接合等について新技法を開発、高度な熟練技術、質の高い仕上技術を所持する。これらを生徒の教育事業、各種イベントでの実技指導、体験教室等を通じ公開し、紹介している。
歯切盤工	岩佐 栄一	いわさ えいいち	男	73	数値制御装置、歯切盤による歯切加工の技能に優れ、顧客の要望に確実に応える知識と技能を有する。ギアカップリングのはめ合い精度を向上させ、カラー印刷等の精度アップに貢献している。また後継者の育成や若い世代に対する指導を通して、人材育成に取り組んでいる。
腐しよく彫刻工	柳 富治	やなぎ とみはる	男	72	長年の修行を経て体得した仏画を、銅版の腐蝕法を利用する銅版画にし、さらに玩具の彩色業で培った色彩感覚で彩色する技法を自ら研究し、発展させて現在の作品を完成させた。作品にはエッチングに焼付塗料による彩色技術を駆使され、色彩豊かな仏画の製作に優れている。
金型工	井口 昌彦	いぐち まさひこ	男	39	金属製小型ベローズの製造は、一般的な工法では最小で外径φ8mmが限界とされていたが、精度の高い金型技術を駆使することにより幾多の挫折を乗り越え、金型による成形機械を完成させた。それによって3工程で全長14mm、外径φ5.4mm、内径φ3.6mmのベローズ成形の実現を果たした。
配電盤・制御盤組立・調整工	中島 和義	なかじま かずよし	男	39	多機種の監視制御装置に対し高度な技能・技術を有している。特に、火力・水力・原子力発電所向け監視制御装置組立配線の技能、官需施設・電鉄・空港向け監視制御装置の組立配線・単体試験の技能及びダム管理制御・情報通信装置組立配線の技能に優れる。また監視制御装置の海外現地据付指導も評価できる。
電気配線工事 作業者	西野 剛志	にし の たけし	男	42	新築やリニューアルの電気設備工事に携わり、現場での施工技能を創意工夫により向上させ、安全で品質の高い建築電気設備を施工している。特にリニューアル改修工事における設備事故の撲滅に尽力した。また幹線切替作業時のチェックリストの簡素化を考案し、長期にわたり設備事故ゼロを達成している。

職種	表彰者氏名	ふりがな	性別	年齢	技能の概要
なっ染工	小林 義一	こばやし よしかず	男	48	東京染小紋の高度な技術・技法を継承する一方、独自のデザイン、色彩感覚を活かし、形に捉われない制作を行っており、高く評価できる。また伊勢型紙を使用しての捺染における両面染の技能は特に優れており、その創作作品は数々の賞を得ている。さらに製作実演や製作体験指導を通して、伝統文化の継承・発展に貢献した。
友禅染工	熊澤 吉治	くまざわ よしはる	男	59	手描友禅染の技法の一つである糸目友禅に関する技能に優れ、伝統的な糸目糊置の技術を現代感覚のデザインに応用し、新しい糸目友禅を施した製品を数多く生み出した。また、染織関連の他業種との交流に積極的に寄与し、互いの技術を生かしながら融合した新製品開発に貢献するとともに、製作体験指導等により後継者確保に貢献した。
紳士服注文仕立作業	中田 雅頼	なかた まさより	男	72	紳士服製作の全般にわたり丁寧な作業を行いつつ、作業の効率化と製品の向上に尽力している。特に紳士服注文仕立時の体型の把握と機能的な製図は評価できる。また各種講習会を通して、後進の育成にあたっている。
婦人・子供服注文仕立職	須藤 陽子	すどう ようこ	女	60	長年洋裁の仕事に携わり、コレクションの作品（縫製部門）を数多く手がけ、その技術、技能は評価できる。またコンクールに於いては、毎年高度な作品を出品して上位入賞を果たしている。
和服仕立職	岩本 好司	いわもと こうじ	男	53	和服縫製全般にわたり、三十年のキャリアがあり、今は亡き多くの熟練和裁士の技能を伝承し、さらに研究、考案した技能を、講習会を通じ後進に伝えている。特に袴においては馬乗り、仕舞をはじめあらゆる種類に通じ、コートの仕立てにおいては顧客のあらゆる希望を聞き入れ、自らデザインし型を起こしている。
和服仕立職	草川 幸郎	くさかわ ゆきお	男	50	プロの和裁士として優れた知識・技能を有するだけでなく、若い世代にアピールするキャラクターの着物の製作において優れた功績がある。また「足し布の剥ぎの位置」を数値で表すことにより、作業能率・時間を画期的に短縮し、着物文化の裾野を広めると同時に和裁士に統計データ感覚を普及させた。
和服仕立職	小田 美代子	おだ みよこ	女	53	和裁仕立職として長年従事し培った技能、特殊技能に精通し、その仕立技能は秀逸であると評価できる。特に、布の状態に合わせたヘラ(印)付けは正確であり、変わり襟コートや振袖、留袖、宮参り着などの伝統的なふき綿仕上げに優れている。
建築とび工	大澤 一人	おおさわ かずひと	男	40	都内を中心に数多くの高層・超高層ビルを手掛け、代表的な建築物であり、注目を集めている。構築中は、蓄積した知識・技能により、鉄骨の建て方・仮設物の組み立て解体などに創意工夫を行っている。また施工計画・品質・安全衛生の各管理、環境問題に多くの貢献をし、工事現場のキーマンとして活躍している。
配管工	松田 英行	まつだ ひでゆき	男	68	給排水衛生、空調設備全般にわたる幅広い知識と技能を有し、給水管の分岐穿孔、給湯配管、汚水枘のインバート施工の技能に優れる。また貯水槽水道から、直結給水へ切り替えるための流量計算ソフトの製品化に取り組み、その製品化の成功と技術の普及に貢献した。
ガラス熱加工工	橋本 秀秋	はしもと ひであき	男	50	理化学ガラス機器の高度な加工技能に優れ、CADを駆使した図面作成と仕様作りによって作られた製品は評価が高い。また技能検定委員として活躍するとともに、後進の指導・育成に貢献している。
ガラス研ま工	大久保 忠幸	おおくぼ ただゆき	男	61	高度な技術力を有し、カットの正確さデザインの優美さ、そして伝統を基本にした斬新な作品を制作している。また日本伝統工芸展、組合新作展、個展等の数々の展覧会に出品し、多数の受賞歴を有する。

職種	表彰者氏名	ふりがな	性別	年齢	技能の概要
指物職	佐藤 進	さとうすすむ	男	58	江戸指物の技法的特徴である、あらゆるホゾ組み技法を活用して、現代にも通用する魅力ある新作を毎年積極的に発表している。また、後進技能者の指導・育成にも貢献し、特に、内ホゾの掘り手順の指導の第一人者である。
木彫工	渡邊 敏泰	わたなべとしやす	男	53	二十八年余木彫一筋に励み、特に仏像彫刻や肖像彫刻及び彩色仏像の制作に優れている。また技能を活かし、貴重な仏像の修復作業にも携わり、伝統文化の継承に貢献している。
紙加工工	小泉 幸雄	こいずみ ゆきお	男	63	江戸の名工、初代小泉七五郎から続く江戸からかみ師として、伝統工芸の普及、後継者の育成指導に尽力している。新しい商品の受注にも修行中の3男の意見を取り入れながら、販路拡大につとめる。また木版雲母彫の技能の研鑽を惜しまない傍ら、「型染」の技法も習得するなど、伝統工芸の習得に努めている。
水産加工工	生駒 貢	いこま みつぎ	男	63	水産ねり製品製造に長年従事し、製造に関する知識や技能だけでなく、従事した職歴から得られた原料や工程管理、商品開発の高度の知識を有している。また水産ねり製造において、作業の改善等で取得した特許は23件にのぼる。
理容師	榎本 好太郎	えのもと よしたろう	男	59	理容施術について全てのヘアスタイルの土台となる基本髪型を作るベーシックカットの技術の確立と普及に尽力するとともに、後進の指導育成に貢献した。特に理容の基礎的技術の根幹であるメディアムカットにおける技能は高く評価できる。
日本料理調理人	西宮 孝	にしみや たかし	男	55	関東を中心とした伝統的日本料理技術に優れ、実用的な関西料理の喰切料理も極めている。現代的日本料理の創造に努めるとともに賓客を接待する施設での宴席料理の技能に優れている。また、素材の味を熟成させ保存性を高める漬け込み仕事に秀でている。
日本料理調理人	木村 徹	きむら とおる	男	59	長年の修業で培った日本料理の調理技術技能に卓越し、時代の要求に対応した企業経営店舗におけるメニューづくり、注文に応じた味加減を実践している。特に、素材の応用と調理時間の短縮技能、塩漬け野菜類の塩抜きスピード化技能に秀でている。
中華料理人	近藤 紳二	こんどう しんじ	男	49	上海料理の優れた技能を有し、特に乾燥食材のフカヒレの調理に秀でており、乾燥状態から大きく、美しく戻すことができる。また料理を提供する際に冷めにくくするため、内部から温められる銀製の二重底の器を考案した。さらに、日本産の食材を取り入れた新しい料理を考案するなど、日本の中国料理の発展に貢献している。
ソムリエ	石田 博	いしだ ひろし	男	41	ホテル、レストランのソムリエとして長年従事しワインのみならず飲料全般と料理のサービス知識・技能を有している。「第1回・第2回全日本最優秀ソムリエコンクール」において1連覇を達成、日本代表として「第10回世界最優秀ソムリエコンクール・モントリオール大会」で3位に入賞している。
木工塗装工	長橋 勝彦	ながはし かつひこ	男	67	木工塗装において、知識・技術・技量に優れ、特に拭き漆仕上げ・染色・エナメル等、上等ウレタン塗料仕上げ技術は高く評価できる。また材料メーカーと幾多の改善を重ね、より優れた材料を提案するとともに、講師として後進の育成を行っている。
和楽器組立工	芝崎 勇二	しばざき ゆうじ	男	71	三味線の棹などの全工程を一貫して手作りで製作できる希少な職人である。三味線棹の材料吟味から「木取り」で始まる伝統技法を守り育て、一流の演奏家から支持される秀逸なる楽器を製作しており、優れた皮張技術を有する。

職種	表彰者氏名	ふりがな	性別	年齢	技能の概要
漆工	安宅 信太郎	あたか しんたろう	男	61	漆塗りの技術を16歳より父から学び、今日まで漆塗りの技術の向上と普及、発展に一貫して取り組んできた。伝統的な技法を更に充実させた。塗りの技術は高く評価できる。特に、建築関係の仕事では、寺社仏閣、公共施設、文化施設等の修復等にかかわる漆工に数多くの実績があり、この中には歴史的建築物も少なくない。
貴金属細工加工工	飯田 敏夫	いいた としお	男	57	貴金属宝飾品の細工加工において、ミキモトブランドの極めて難易度の高い商品をはじめとする逸品の制作に従事している。また貴金属装身具制作の細工加工における主要工具の糸鋸、タガネ、ヤスリ、ヤットコ等を常に創意工夫して巧みに扱い、平面で描かれたデザインを立体的にイメージし、それを製品化していく優れた技能を有している。
貴金属細工加工工	高橋 一博	たかはし かずひろ	男	60	貴金属製作作業のマイクロ単位の原型作業に独特の工夫と技術を持ち、表現技能に優れている。技能士会参加事業で先頭に立ち公開実演等を行い、若手技術者の技能育成に寄与した。特に小物製作細密加工の技能は高く評価できる。
貴金属細工加工工	丹沢 寛次	たんざわ かんじ	男	68	半世紀以上に亘り貴金属装身具の製作に従事し、宝石の選別から最終の仕上げに至るまでの全工程を一人で手掛けており、全国規模のコンテストでの幾多の受賞歴を持つ。また伝統工芸との融合を図る新製品開発など新分野の開拓にも意欲的に取り組み、貴金属装身具加工業界の更なる発展に尽力している。
角・貝・きば類細工工	石橋 保	いしばし たもつ	男	76	和楽器の付属部品の製造に長年従事し、優れた知識、技能を有している。特に三味線の付属品の手作業製造技能は評価できる。また貴重な象牙を原料として製造をするため、高度な切削、及び接着技術を用いて、今までより少ない材料で「接ぎ撥」を製造している。
印章彫刻工	岡本 竹弘	おかもと たけひろ	男	64	緻密で繊細で味のある正統な印章彫刻技術を習得し、長年の研鑽の結果、木口彫刻、ゴム印、篆刻など幅広い技能を保有する。また指導者としてその技能を生かし、組合の講習会の講師や競技会の審査委員を依頼され、後進の育成にあたっている。
草・つる製品製造工	深野 晃正	ふかの てるまさ	男	69	約半世紀にわたり釣りしのかぶの製作・販売を手がけ、現在、東京でも希少な釣りしのかぶ職人である。創意工夫により次々とオリジナル商品を開発するほか、美術大学生とのコラボレーションによる新商品開発にも意欲的に取り組んでいる。また、伝統技術の維持・継承に積極的に取り組んでいる。
フラワー装飾師	佐谷 静玲	さたに せいれい	女	63	フラワー装飾全般に長年携わり、アメリカンスタイル、ヨーロッパアンスタイル等の伝統的なフラワーデザインの技法の研鑽の傍ら、日本伝統の生け花の様式をも取り込んだ従来の慣習に囚われない独自の作風を生み出した。特に装飾デザインの基礎の造形技能に秀でている。
フラワー装飾師	宝田 幸枝	たからだ ゆきえ	女	69	日本のいけばなど欧米の花弁装飾技能の融合を目指し、長年にわたりフラワー装飾技能の向上と普及に携わった。特にフラワー装飾の実務現場で培われた広範囲の花弁植物に対する知識と国際化デザインに関する技能は卓越しており、若年技術者や学生への実践的な教育にも大きく貢献している。